

## こんなこともしました！

### ◎居場所マネジメント調査 報告会&意見交換会

調査結果を広く周知し、今後の居場所の可能性などを議論するため、「報告会&意見交換会」を実施しました。

日時：2020年2月6日（木）13：30～16：00

会場：神戸国際会館

参加者：62名

（居場所運営者22、NPO11、地域包括支援センター5  
生協等3、行政2、大学2、議員1、宗教法人1  
その他・不明15）

内容：第1部：マネジメント調査報告会

第2部：意見交換「地域の掘り起こしのアイデア/  
多様な収入源のアイデア」



#### 参加者の声

大学や研究機関による調査は貴重。ヒントがたくさんあった。

様々なタイプの居場所の連携が今後必要になると感じた。

居場所のつながりと行政の資金投入の効用をさらに追及し、まとめて欲しい。

### ◎「きてみてラック」で共同広報プロジェクト

昨年度に引き続き、神戸市東灘区内の居場所運営団体、支援団体、地域包括支援センターなどが中心となり、「きてみてラック」の設置を進めました。設置場所は病院や金融機関などの民間施設に限定し、居場所運営団体がちらしのメンテナンスを担当し、共同で広報に取り組む仕組みです。2020年度はさらに10か所増え、合計32か所となりました。

□設置場所(2020年2月末現在)

<病院> 東神戸病院/うはらクリニック/にじいろクリニック/御影さきげんクリニック/杉田整骨院/  
高瀬内科/清成外科内科医院/是則医院/まつお眼科/田中医院/河原医院

<薬局> 日本調剤六甲アイランド薬局・住吉本町薬局/なの花薬局神戸住吉店・六甲アイランド向洋店/  
阪神調剤薬局向洋町店/ヒロセ薬局/ニコニコ元気堂薬局のより店

<スーパー> コープこうべ甲南店/ローホーストア六甲道駅前店

<その他> 神戸信用金庫東灘支店(金融機関)、プランカ神戸岡本店(洋菓子)、ing住吉(美容院)、  
結弦羽神社(神社)、うはらハウス(高齢者施設)、東灘区組合員センター甲南(医療生協施設)

<見本ラック設置場所> 東灘子どもカフェ/NPO法人きょうどうのわ/認定NPO法人東灘地域助け合いネットワーク/  
認定NPO法人CS神戸



### 今年度の取り組みを振り返って…

2019年度は、従来重点を置いてきた創出支援に加え、運営面を総合支援することで居場所単体の機能向上とネットワーク支援を図ってきました。

創出支援においては、8つの居場所団体が、神戸市はじめ企業や神戸市外郭団体、NPOと協働した講座軸から新たに立ち上がり多様な居場所展開となりました。レアなケースとしては公園を活用した多機能型居場所の実験を終え、次へつながる可能性が見えてきたことです。

運営支援では、夏のサミットで出された共通課題であるデー

タベースの一元化を、行政や社協機関と実現できる目途を立てることができました。これまでの地道な日常活動と課題を全体で共有する集合化が、望む解決策につながったものと思います。

このように単体の力量とネットワークの力量アップが相乗することで、スピーディでニーズに沿った「コミュニティキャピタル」に醸成していくプロセスの支援ができたことは支援者にとっても収穫の多い年度でした。

2019年度 独立行政法人 福祉医療機構 社会福祉振興助成

# 地域の居場所 創出・運営支援事業 報告レポート

2019年度に実施した事業



自分らしくいられて、  
ホッとできる場所。

気軽に立ち寄れて、  
いろいろな人と交流できる場所。

ちょっとした相談ができて、  
生活上の困りごとが解決される場所。

当団体では、数年前からそんな地域の居場所の

創出・運営支援事業に取り組んできました。

今年度実施したのは主に3事業。概要・成果・課題をご報告します。



認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸)

〒658-0058 神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104

TEL.078-841-0310 FAX.078-841-0312

E-mail : office@cskobe.com URL : http://www.cskobe.com

## 1

## 居場所サミット in 神戸

— “新しい視点”で居場所の意義と可能性を再考する —



## 概要

2016年度から実施している居場所サミット in 神戸。今回で4回目の開催となりました。基調講演に藤山浩氏（一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 所長）をお招きし、市内の事例報告とともに居場所の意義を再考する機会となりました。

**開催日** 2019年8月4日(日)

**開催場所** 神戸市勤労会館 大ホール

## 連携先

**共催:** (公財)神戸いきいき勤労財団/生活協同組合コープこうべ (公財)コープともしびボランティア振興財団 NPO法人しゃらく/認定NPO法人しみん基金・KOBENPO  
**協力:** ネスレ日本(株)/(-財)神戸すまいまちづくり公社 健康創造都市KOBEN推進会議  
**後援:** 神戸市/神戸市社会福祉協議会/神戸市医師会 (-社)神戸市薬剤師会/(-社)神戸市ケアマネージャー連絡会

## 1. 神戸市内の居場所の展開事例

## (1) チケット制でカフェとゴミ出し

## すずカフェ 鈴木好美氏

居場所「すずカフェ」を始めて約3年になりますが、チラシで知った第1回の居場所サミットに参加したことがきっかけでした。実際に活動しておられる団体などのお話がとても参考になり背中を押してもらった感じです。

現在は5人で週1回開催し、20~30人が参加されています。1枚100円のチケット制で、飲みものとおかしを盛る程度ですが、皆さんおしゃべりして楽しんでもらっています。

10年前からゴミ出しのボランティア活動も続けていますが、カフェに来ている方の中からゴミ出し活動に参加される人が出てきています。ゴミ出しも100円チケット制でボランティアさんには80円を、カフェの活動費として20円をいただいています。お金は不要というボランティアさんにはカフェのチケットと交換しています。チケットを通じて地域がぐるぐるまわる感じになってきています。今後は、頼む人と頼まれる人をもっとつなげていくことやカフェでランチをすることを考えています。



## (2) 地域との協働の場所『ウェルカフェ』

## ウェルシア薬局株式会社 鶴田 峰子氏

ウェルシア薬局では、4年前から「ウェルカフェ」を運営しています。店舗入り口すぐの一番良い場所に約6坪のスペースを設置して、地域や行政の方と連携した地域貢献活動場所として開放しています。全国1800ほどある店舗のうち約240店舗で設置しています。東灘区魚崎北町店の事例では、CS神戸さんからボランティアさんを紹介していただき、第2木曜日の昼に「かしまし処」という会をしています。お茶を飲んで、おかしを出して話をすることから始めて、回を重ねるごとに工夫して手作り教室的なものなどに活動が広がってきています。手作業は介護予防にもつながり、笑うことも認知症予防に良い効果があります。まだまだ利用者が少ないですが、無料で貸し出しているの、是非、利用していただき、元気で長生きできるまちづくりにつながればと考えています。ホームページからも申し込みますし、店舗にも気軽に問い合わせしてほしいと思っています。



## 2. 基調講演

## 居場所への期待「1%戦略で循環型地域経済をつくる」

一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山浩氏



&lt;抄録&gt;

## 1. はじめに

私は、いなか（中山間地域）の専門家として島根県益田市に在住し活動しています。いなかは先に高齢化していますが、逆に多世代多機能なまちづくりが先に始まっています。この5年、10年で居場所カフェなど数多くの居場所ができてきており、これは今までにない傾向です。ところで、「居場所」の反対語は「居場所がないこと」ではありません、「かせぐ場所」だと思います。

今までの日本は経済成長一本やりの社会で、暮らすために「かせぐ」ことが転倒してしまい、「かせぐ」ための「暮らし」になってしまっています。当然居場所はなくなります。また、人生100年時代を迎え生産年齢である20-60才を終わった後の暮らしも問題になってきています。「幸せになるために暮らすこと」=「かせぐこと」ではありません。

## 2. 都会の話から

まず、都会の話をする。どんどん建設されているタワーマンションがとても心配です。皆さんはタワーマンションのいったい何階まで階段があがりますか？このような場所で子どもが育つのでしょうか？20、30年後どうなるのでしょうか？これ以上東京に人口集中するとどうなるのでしょうか？

東京も地方と同じように2050年には高齢化します。実際、東京23区は介護認定率が高いのです。東京オリンピックをやってる場合ではありません。長い目で見て一番持続性がないのは東京です。これ以上の都市集中は無理なのです。

高度成長期以降は都市への人口集中が経済成長のモデル（規模の経済）でしたが、全面的な限界に直面しており、今からは都市と田舎のバランスをとる必要があります。都市も地方のマンションも使い捨てになっています。

## 3. 地方の新しい動き・・・人口の1%を取り戻す

特に東日本大震災以降、人の流れが変わってきています。人口減少社会で人口の取り合で希望がないと言われてますがそれは違います。中山間部に人口が戻るようになってきているのです。その地域の持つ自然の底力、文化暮らしの在り方など地域社会を組み立てておいているところには人口が戻りつつあるのです。

高知県大川村などの事例にみられるように「過疎地」で実質社会増をしている地域があるのです。私の研究では多くの過疎地で人口当たり1%の増加を図れば子供の人数を守れるのです。これは、東京のためにもやるべき施策です。

島根県益田市二条地区や島根県邑南町などでは、様々な定住戦略によって年1%の定住を増やす人口持続可能地域になっているのです。公民館を中心に活動をしたり、地区で会社をつくらしたり、地区同士がお互いに学びあうような仕組みを作るなどしています。

## 4. 地方の経済・・・所得の1%を取り戻す

もはや、従来型の成長路線は続きません。まず地域で消費されるものを分析してみると、大きく分けて「食費」、「エネルギー」そして「交通」の3つが挙げられます。食費支出のナンバーワンは外食で、そのほとんどはチェーン店、地域外資本です。エネルギーも同じことです。地域外のモノを買って、利益が地域外に流れて行ってしまっているのです。全部を取り戻す必要はなく、域外流出の1%を取り戻せば所得の1%を取り戻せるのです。

パンを例にとれば域外で製造されたパンを売るのではなく、原料や製造を地元ですることによって地元さらなる所得が生まれます。地元のパン屋さんも人口1000人単位なら地域で存立することができるのです。地元1%の経済を戻す。地元の水をやるのが大切なのです。野菜なども地産地消率を高めればよいのです。

## 5. 多世代多機能の合わせ技が必要

従来の縦割りの補助金・行政制度では分野ごとの「規模の経済」になっていますが、これを人材、資金、土地、施設を横断し「範囲の経済」（柔軟な連結決算の仕組み）にすることを合わせ技と呼んでいます。

顔が見える範囲でヤマトノオロチ（多世代多機能の合わせ技）を地域に育てるのです。大きすぎても小さすぎてもダメで、数千人、小学校区単位ぐらいが望ましいです。その中には、居場所もつくります。

邑南町出羽地区では合同会社をつくり、自治会機能だけでは難しい収益事業や空き家対策などに機動的に対応しています。1人で作るのではなくみんなで出資して会社をつくり、各種補助金なども有効に使います。

いろんな職種を組み合わせ、みんなで力を出し合うことが重要です。1人分の所得を1つの分野で創出するのではなく、0.2人分などコンマ以下の仕事を集約していきます。これは居場所の運営にも重要な考え方です。居場所も1人の人が頑張るのではなく、みんなでローテーションすることが大切です。これは田舎も都会も変わらないと思います。小さな拠点を様々な職種で合わせ技で残すと所得が地域内に留まりやすくなります。

高知県梶原町四万十川地区では空き保育園を活用して組み合わせ事業を、島根県雲南市波多地区では交流センターを活用し、住民に交付金をまとめてわたして福祉、公民館、コミュニティを一括にまとめ、売店も併設し運営しました。

波多地区では地域内交通を無料にしました。車は自治体を用意して、運営は地域です。当然完全赤字ですが、この単独事業だけの収支を見るのではなく、それによって地域の高齢者が元気になり、結果的には高額な福祉施設をつくるよりずっと安上がりなという連結決算の考え方で地域を見なければなりません。

## 6. 居場所の様々な事例

明石市では市がスペースを借りあげて、こども食堂など多彩な人が集う場所を地域で運営し、子育て世代流入が関西ではトップの自治体になっています。この考え方は都会も地方も同じです。

高知県土佐清水市では、モーニングの日という 200 人の集落に 200 人が集まるという居場所があります。まず、月一でもよいので無理なくやり、顔がわかる、人が顔を合わせるのが重要です。是非、都会でもやってほしいです。

イギリスのパブも地域のつなぎ役を果たしています。イギリスのパブのようにカウンターを設置するなどひとりでもいきやすい空間、場をつくる工夫が重要です。日本の中山間部でも小さな本屋さんがありますが、そこはひとりでも行きやすい場なのです。

イタリアでは日本のような大店法がないため地域にお店が残っています。村には広場もあり、カフェが居場所になっています。家と職場の往復だけではだめで、普通に話せるサードプレイス（居場所）が重要なのです。

## 7. お達人実現

日本では増え続ける介護・医療費用の問題は極めて深刻な状況です。しかし、地域別に分析すれば、田舎の介護費用が少ないことがわかります。それは、田舎のお達人度が高いからです。

その違いは、1つは地域づくりで年をとってもやること、居場所、役割があるかどうか。もう一つは生涯現役型の小さな農林漁業でものを作っていることです。

益田市真砂地区では、高齢者の買物支援のために週に1回送迎バスを運行していますが買物するだけでなく、自分の作った野菜を持って行ってその産直コーナーで売ってわずかながらも所得を得ています。今の農林行政はすぐに規模の農業を議論しますが、このような小規模な方式が健康維持につながり、医療介護費用を節約しているというトータルな見方をしないとイケないのです。

一方、都会では農業のように作るものがないのでなにか工夫が必要ですが、財政難であればなるほど、こういう方向にシ

フト、投資するべきであり、連結決算の長い目で見た場合、都会での居場所づくりにも単なるたすけ合い以上の重要な意味合いがあります。

## 8. 循環型経済へのシフト

資源を無制限に消費するようなシステムが限界に来ている地球環境問題を考えた場合、ソーラー、バイオマス、風力発電など循環型経済にシフトすることも重要になってきます。これからはお金の利子でなく自然の利子で生きていかないとイケない。ここまで述べてきたような方向転換に加え、地域でエネルギーも再生し、自給できるようにできるようにしていくべきです。

確かに都会に比べ地方での交通移動費用はかさみますが、EV（電気自動車）の技術とシェアリングエコノミーの手法で解決していく可能性があるのです。

## 9. 素敵な女性たちが未来を創る

地方再生の活動では、女性の活躍、女性の起業が多く見られます。ブックカフェやもりのようちえんなどの事例があります。従来の大きく、強く、速くという男性型発想の直線型達成方法ではなく、美しい、美味しい、楽しいという暮らしに根ざした女性型の曲線的達成方法が重要です。

## 10. おわりに（記憶と風景が残る場所）

人と人をつなぐことが地域社会においては重要ですが、人をつなぐキーマンが大切になってきます。「サンゴ礁」人的ネットワークと呼んでますが、地域社会ではこのような人間関係を育てる仕組みが重要です。

人口とは人生の数です。経済成長一辺倒のものではなく、手間をかけたものしか人には伝わらず残らないので、この人は頑張ったという記憶と風景が地域や次の世代に残るようにしなければなりません。

これは都会でも田舎でも同じです。もう一回頑張ろうという社会になってきているので、居場所は単なる助け合いの場だけではなく、記憶と風景が残る場所になるように頑張ってほしいと思います。



## 成果と課題

4回目の開催となる今回は、「新しい視点」を意識して、都市型居場所のあり方や今後の方向性について再考する機会としました。居場所数が増えてくるに連れ、情報の一元化や広報が課題となっています。今後は行政や社協とも連携しながら、必要な人に必要な情報を届けられるような仕組みの検討が必要と考えています。また、このサミットで団体間の信頼関係が築かれ、主体別であった居場所情報について、データベースの一元化を行政に共同提案する活動につながりました。



# 2 居場所コーディネーター養成講座

## — 実践的プログラムで立ち上げをサポート —

### 概要

居場所の立ち上げをサポートするために、「一般コース」と「公園で居場所コース」を設定しました。事例紹介、視察、ロールプレイなど、実践的なプログラムで新たな立ち上げをサポートしました。

**期間** 2020年1月～3月

**場所** まちづくりスポット神戸/兵庫勤労市民センター

**連携先**

まちづくりスポット神戸(大和リース㈱とCS神戸が協働運営)  
生きがい活動ステーション((公財)神戸いきいき勤労財団とCS神戸が協働運営)  
地域共生拠点・あすパーク

## 一般コース

参加者19名/全4日

近隣の方すでに地域活動を経験しておられる方等が参加されました。またパチンコ関係の会社からも複数の社員さんが来られ、共有のレストランススペースを居場所のような場にできないか、というユニークな相談もありました。



### 参加者の声

ぼんやりとやりたいと思っていたことが何となく形に見えたような気がしました。

「あたたかい人柄を醸し出し、人間力を高めて」という言葉に納得でした。

	日時	テーマ
第1回	1月27日(月) 10:00~12:30	講座とゲストトーク 「ミニ講座」 今、居場所が必要なワケ&事例紹介 「ゲストトーク」 居場所をやっている人に聞いてみよう!
第2回	2月3日(月) 10:00~12:30	講座とロールプレイ 「居場所における コミュニケーションのポイント」
第3回	2月4日(火)~ 2月16日(金) (うち1日)	居場所見学 「地域の居場所に行ってみよう」
第4回	2月17日(月) 10:00~12:30	講座とグループワーク 「居場所運営のマネジメント」 ～ヒト、おカネ、広報のポイント～

## 公園で居場所コース

参加者14名/全5日

神戸市灘区の大和公園内に当団体が新しく設置した「地域共生拠点・あすパーク」で実施しました。最終日はコロナウイルスの影響で延期となってしまいましたが、状況を見ながら、公園での新たな居場所づくりに取り組んでいく予定です。



### 参加者の声

皆でアイデアを出し合い、作業をするのが楽しかったです。

実践的でとてもよかったです。立ち上げまでの経緯がよくわかりました。

	日時	テーマ
第1回	1月29日(水) 13:30~16:00	講座とゲストトーク 「ミニ講座」 今、居場所が必要なワケ&事例紹介 「ゲストトーク」 居場所をやっている人に聞いてみよう!
第2回	2月5日(水) 13:30~16:00	講座と演習 「居場所におけるコミュニケーションのポイント」 ●ロールプレイ
第3回	2月12日(水)~ 13:30~16:00	講座と準備 次回の「居場所をやってみよう!」の準備
第4回	2月26日(水) 13:30~16:00	実習 「やってみよう!地域の居場所」
第5回	3月11日(水) 13:30~16:00	講座とグループワーク 「居場所運営のマネジメント」 ～ヒト、おカネ、広報のポイント～

※第5回はコロナ感染予防のため延期

## 成果と課題

「一般コース」では、立ち上げを希望される一般市民の方々に加えて、パチンコ店の社員さんが複数参加されるなど「居場所」の認知度の高まりと担い手の多様化を感じる機会となりました。「公園で居場所コース」は2020年6月頃の立ち上げを目指し、現在準備中です。講座や昨年度からの継続相談などを通じて、2019年度中には8カ所の居場所が立ち上がり、約2カ所も立ち上げに向け準備中です。今後は新規の立ち上げだけではなく、開催回数の増加、生活支援サービスの付加など、既存の居場所の機能拡充も求められます。

# 3 居場所マネジメント実態調査

— 21団体の回答から見た民間居場所の意義と継続のポイント —

## 概要

神戸市内21カ所の居場所の主催者に、居場所マネジメントの状況や主催者としての考え方、収支状況などを詳しくインタビューしました。先進的な取り組み、運営する居場所の個性や特徴、継続発展のための課題などさまざまな実態が明らかになりました。

**期間** 2019年8月～9月  
**対象** 神戸市内の居場所21カ所

**連携先** 兵庫県立大学政策科学研究所NPO研究連携センター（CS神戸との共同研究として実施）

## 調査の目的・趣旨

「居場所」は今日、通い場、サードプレイス等様々な名称で地域の必需活動として根付いてきています。民間主導型に加え、行政主導型が急速に展開されてきていることもあり、どのようなあり方が住民のためになるのか、常に問いかけ持続可能な社会的装置に育てていく必要があります。地域で24時間暮らす人口の急増、中高年の引きこもり、子育ての孤立化等、市民が一旦立ち寄り、相互交流から自分らしさを復活する場でもあります。そのためには実践だけではなく、調査し分析し、ニーズに基づく展開をすることが大切です。今回のマネジメント実態調査はそれに応えるものであり、結果を皆さんと共有し、全国の居場所に磨きをかけていきたいと思えます。

## 1. 期待される居場所の定義

期待される居場所の特徴の順番（番号）は居場所の機能向上と大きく関わっています。1～3は運営主体と開催回数を、4と5は利用者の変化や多様性・多世代性を、5と6は居場所の経営とその継続性、8は居場所への出入りの自由度、他地域からの参加に関わるオープンさ、9と10は地域課題への視点を持ち、それを解決すべく行動することを示しています。これは個々の居場所の状況をチェックする項目としても使えます。

### 本調査における期待される居場所（定義）

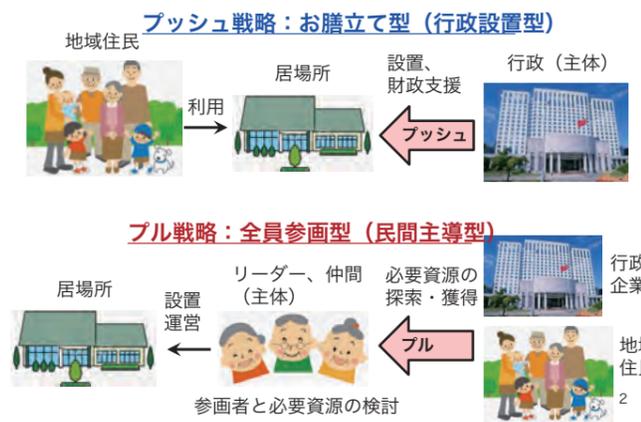
1. 週1回以上の定期開催（回数）
2. 地域の住民が主体（利用者、担い手）
3. おおよそ30分以内の圏域（商圏、空間）
4. 得意なことができる（利用者から担い手へ）
5. 対価収入がある／お金が動いている（経済、経営）
6. 活動の継続が期待されている（継続性、持続性）
7. 利用者の年齢・対象を制限しない（多世代、多様性）
8. 社会・地域のニーズへの対応（地域視点、プル戦略）
9. 地域課題への共感性・視点（地域視点、プル戦略）
10. 出入り自由（オープン性）



## 2. プッシュ戦略とプル戦略

居場所の設置と運営には、1 プッシュ戦略（設置・資金の押出型）：お膳立て型と2 プル戦略（必要資源の引込型）：全員参画型があります。前者は行政が居場所を設置し、資金も提供するタイプで、高齢者の多くは利用者としてのみ参加します。後者は地域住民が必要資源を持ち寄って居場所を設置・運営し、地域住民は利用者や担い手として居場所に参加します。居場所の担い手は必要な資金・資源を行政や地域住民から引出す（プル）こともあります。プル戦略は地域の実情に合った居場所づくりに最適なやり方です。

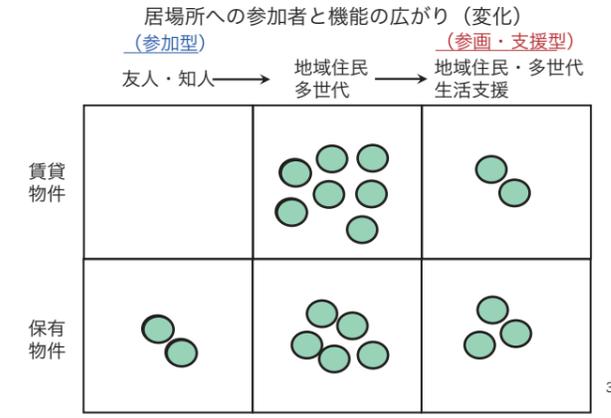
### 居場所設置・運営のプッシュとプル



## 3. 居場所のあり方と変化

居場所は変化しながら多様な機能を持ち始めます。まず図の縦軸は、居場所という拠点の所有の有無を示しています。それは居場所経営の費用面にも大きく影響します。図の横軸は昨日の変化を示しています。まずは友人・知人だけから居場所を始めて、その後、高齢者だけでなく子育て世代や子供たちも集うようになります。さらに、地域課題を解決すべく生活支援事業も行うように変化・発展し、居場所が助け合いの拠点になるわけです。

### 居場所の形成と変化（分布）



## 4. 居場所のリーダーシップスタイル

居場所の機能変化にはリーダーの役割が欠かせません。設置当初は1 仲間づくりと2 仲間と一緒に居場所を運営していくという意志が重要になります。その後、地域住民や多世代の人たちが居場所に集うという第二段階に変化するためには、3 地域住民とのつながりや地域を巻き込む能力、そして4 関わった人たちと一緒に地域を盛り上げていくという意志が不可欠です。最後に、地域の困りごとを解決したいという意志や仕組みが備わると居場所が生活支援事業なども展開できるようになります。

### 居場所リーダーの重要な能力

- ・ 居場所の形成、成長・発展プロセスにおける居場所リーダーの重要な視点と能力
  - ① 仲間づくりの能力（形成時に不可欠）
  - ② 仲間と何か一緒にやっていきたいという意志・意欲（第一段階は①と②が重要）
  - ③ 仲間だけでなく地域住民とのつながり能力。地域を巻き込み、掘り起こす能力
  - ④ 関わった人たちと地域を盛り上げていきたいという意志・意欲（第二段階は③と④が不可欠）
  - ⑤ 地域住民の困りごとを解決したいという意志と仕組みづくり（第三段階は⑤が不可欠）
- 「地域とのつながり」という視点を持った人の育成<sup>4</sup>

## 5. 居場所の経営・マネジメント

多くの居場所は高齢者に安価でコーヒーやお茶菓子、弁当などを提供しているため、経営的には非常に厳しい状況にあり、ボランティア謝金も提供できないのが現状です。それゆえ、会費や講座収入、イベント開催、フリマボックス、リサイクル品販売、生活支援事業など、多様な収入源を創りあげる必要があります。そのためには、居場所リーダーの地域とつながる力や地域を掘り起こす能力が不可欠になります。

### 4つの居場所の経営比較

	居場所A	居場所B	居場所C	居場所D
開催日 営業日	週2回（月1で日曜日）	週4回（土曜日に月一で開けている）	週5回	週7日
収入	230万円（17年） 136万円（18年）	300万円（17年） 288万円（18年）	397万円（18年）	390万円（16年） 395万円（17年） 480万円（18年）
費用 家賃 人件費	230万円（17年） 136万円（18年） 家賃あり、人件費なし。費用は使い切る。繰越が27万円。	260万円（17年） 255万円（18年） 家賃なし、人件費なし（主要メンバーは月々3000円）。繰越が33万円。	473万円（18年） 家賃なし、ボランティア謝金あり。基本的には赤字状態。	396万円（16年） 400万円（17年） 490万円（18年） 家賃あり、人件費なし（講座や生活支援は謝金あり）
特徴 課題	無理なく開催。収入増は課題。	男性もうまく活用	ボランティア謝金を出している。	毎日開催。多様な収入源。

## 調査まとめ

調査のまとめでは以下の3点を強調したいと思います。①居場所のあり方は変化します。その変化を通じて居場所は地域に根づき、利用者になくはならない存在になります。②居場所の運営はプル型（全員参画型）です。地域に愛着を持ったリーダーが、地域や利用者の実情に合わせた居場所運営を行い、利用者を支援者にしていくことがとても重要です。③居場所の経営はかなり厳しいため、会費、寄付、利用者収入、イベント活用、講座、フリマボックス、リサイクル品バザーなど、多様な収入源で対応すべきです。これらを意識して、今後もより良い居場所づくりをして頂ければと思います。